

序 章

1. 大分県南地方拠点都市地域整備の基本理念

地方分権への関心が高まりを見せる中で、依然として東京圏への人口・機能の一極集中が進み、一方、地方圏での人口減少と急速な高齢化が進展している。そのため、大分県においては「若者の定住と過疎からの脱却」を目標として、交通体系の整備、過疎対策、農林水産業の再生及び快適な生活環境整備を行い、質の高い「生活大県」をめざした基盤づくりを進めてきた。

大分県南地域も例外ではありえず、人口の減少と高齢化の波にさらされており、若者の定住と過疎からの脱却は県全体以上に急務の課題となっている。今後、東九州自動車道の整備や四国をはじめとする国内・国外との連携強化のための港湾整備によって、東九州軸における交流拠点として、都市機能の増進、安全かつ快適な居住環境の整備、情報通信基盤の整備及び就業機会の拡大を図り、これら課題に応じていく必要がある。

この計画は、こうした背景を踏まえ、大分県の南の拠点地域として、また、東九州軸の拠点地域の一つとして、大分県南11市町村が一体となり、「職・住・遊・学」の機能を総合的に備えた魅力ある地域の形成と宮崎県北地域と連携した日豊経済圏及び豊後水道経済圏（仮称）の交流核としての「東九州軸・豊後水道情報交流都市圏」づくりをめざして、以下の基本方針に基づき策定するものである。

(1) 交通条件の整備

(2) 定住条件の整備

(3) 交流条件の整備

2. 地方拠点都市地域の概要

(1) 地方拠点都市地域の名称

大分県南地方拠点都市地域

(2) 中心都市名

佐伯市

(3) 地方拠点都市地域の構成

当地方拠点都市地域は、中心都市である佐伯市及び臼杵市、津久見市、上浦町、弥生町、本匠村、宇目町、直川村、鶴見町、米水津村、蒲江町の3市5町3村からなる。

市町村別人口・面積

市町村名	人口 (平成2年)	人口増加率 (%)	面積 (km ²)
佐伯市	52,323	△4.4	197.29
臼杵市	37,871	△4.7	151.79
津久見市	26,797	△7.1	79.26
上浦町	3,238	△6.7	15.59
弥生町	7,165	△1.9	82.89
本匠村	2,376	△7.4	123.15
宇目町	4,285	△10.4	265.99
直川村	3,424	△4.5	80.82
鶴見町	5,065	△5.2	20.15
米水津村	2,924	△5.5	25.16
蒲江町	10,417	△5.7	91.67
合計	155,885	△5.2	1,133.76

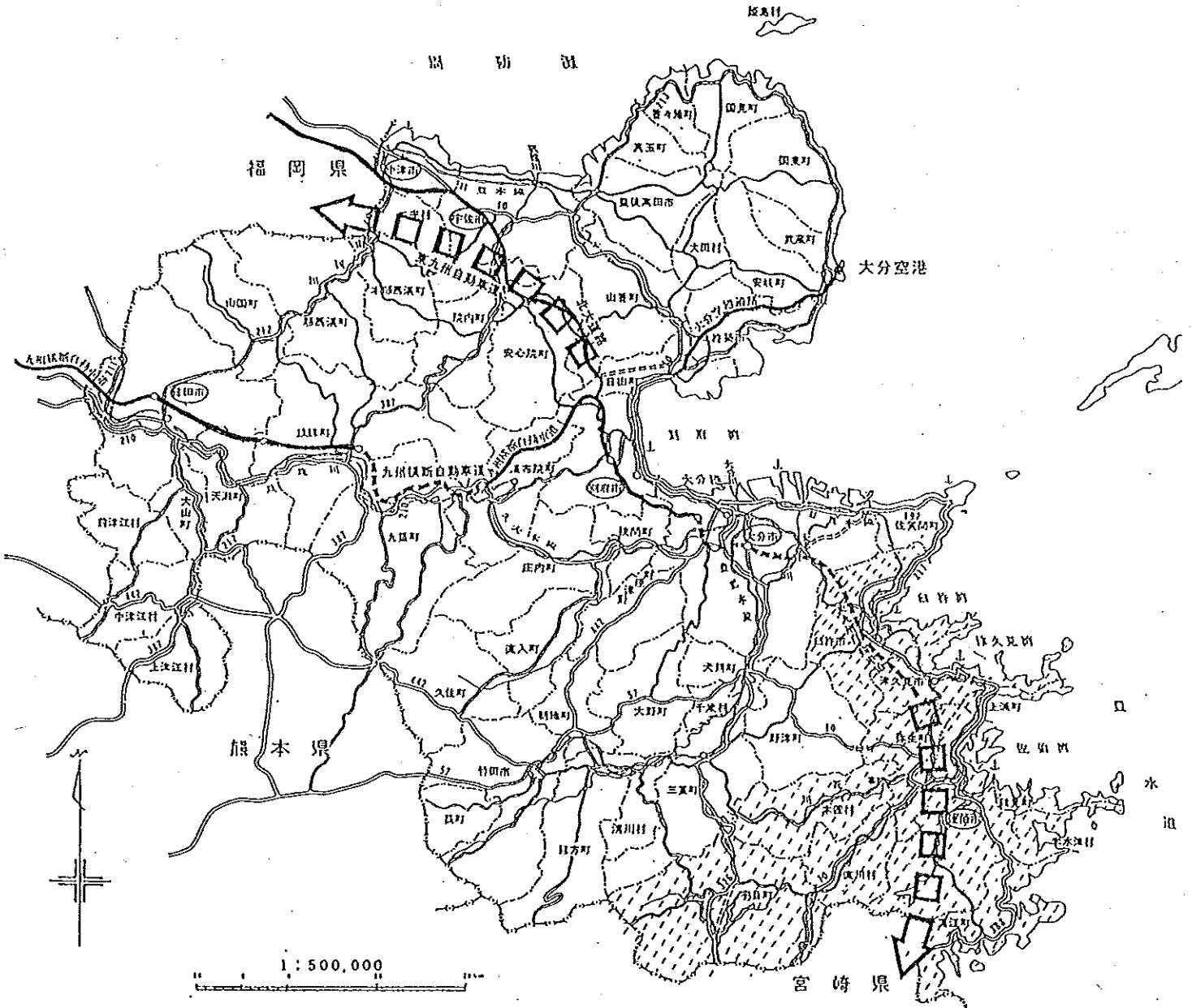
出典：人口・人口増加率（昭和60年～平成2年）は国勢調査
面積は国土地理院（平成2年）

凡 例



当該圏域

(4) 位置図



(5) 圏域図

